

特集 「たけはらファン」はじめました。

Vol. 3

竹原市高崎町の「竹原豊山窯」を製作拠点とし、平成24年に竹原市名誉市民を授与され、平成30年に文化勲章を受章された陶芸家の今井政之さんにお話を伺いました。

●幼少期の経験が作品へ

私は、13歳の時に父の故郷である竹原に疎開しました。当時、瀬戸内海の豊かな自然の中で過ごした経験などから、私は作品の中で「自然」を表現することにこだわっています。

瀬戸内の魚や草花など、生き物たちと語り合いながら一つのモチーフとし、決して図案ではなく生き物そのものが私の作品には存在します。その表現方法として、象嵌(ぞうがん)技法の探求を続け、試行錯誤を

しながら象嵌という手法に行き付きました。

また、自分の感性を表現するために土にもこだわり、強度のある東広島市八本松町原の陶土をベースに県内の土を使っています。広島窯で焼く以上は広島土を使うという信念です。

最近はより明確に象嵌を表現するために、半磁器の白い素材に象嵌を行う「白砂瓷(はくさじ)」の手法を開発し、取り組んでいます。

●文化と自然が産み出す竹原の魅力

竹原は江戸時代からの塩田が栄えた町で、頼山陽で有名な頼家一門など多くの学者や文化人を輩出し、文化的に非常に魅力的な町です。長い歴史に培われた竹原の血を大切にし、現在に至るまで

の文化を、陶芸をとおして表現していきたいです。

また、海があり、自然に触れることができることも魅力で、昔はよく黒川魚市場でスケッチをしましたし、船で沖に出てオコゼを釣って、そのオコゼをモチーフにして作品も作りました。

食もすばらしく、魚がおいしい。峠下牛もおいしい。最近ブランド化されて有名ですが、昔は大乗のお店で良くいただいていた。それらを肴に竹原の日本酒3銘柄をいただくのが贅沢な時間です。

●竹原の皆さんへメッセージ

私は竹原での経験・文化の影響を受けながら、90歳まで陶芸作品を作ってきましたが、竹原の皆さんにも、私の作品を知っていただきたいです。竹原豊山窯や竹原市役所ロビーでも展示をしていますし、今年の10月からは、東広島市立美術館で、回顧展として若い頃の作品を含めた展覧会を行いますので、ぜひご覧いただければと思います。



いまい まさゆき
今井 政之さん プロフィール

大阪市出身。昭和18年に父の故郷である竹原町へ疎開し、広島県立竹原工業学校(現竹原高等学校)へ入学。卒業とともに備前市で備前焼の修行を始め、その後楠部彌弉に師事するなど、京都を中心に陶芸活動を開始。

昭和53年、竹原豊山窯を築窯し、製作を開始。面象嵌の第一人者として、文化勲章を受章するとともに、竹原市名誉市民・広島県名誉県民に選定された。



▲息子の真正さん(右)。彫刻科で磨いた造形力で、生命力・躍動感に満ちた作品を制作する。



▲猫の目をモチーフとした「焼×盤」。池田勇人総理大臣へ贈られた。(現在は竹原市が収蔵。)